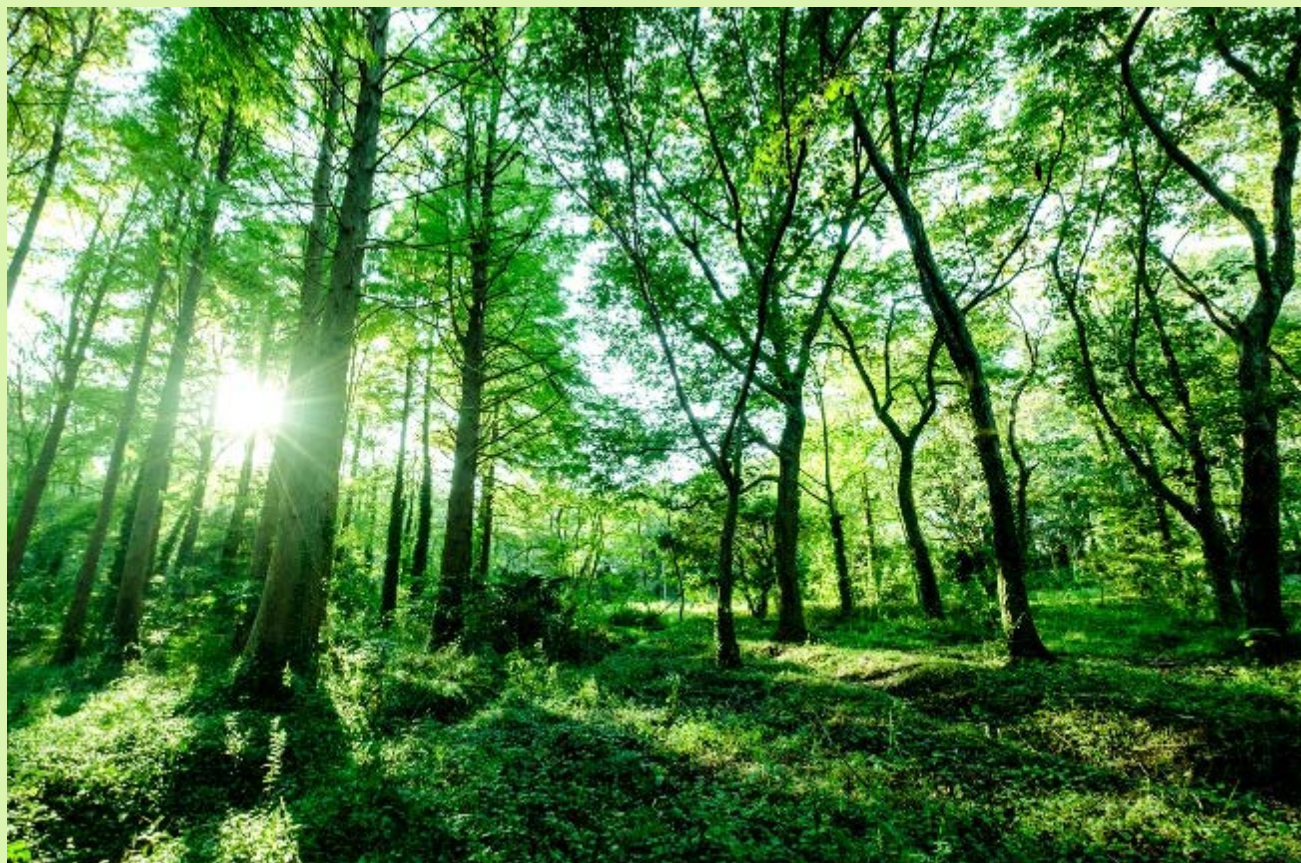


# 森から世界を変える REDD+プラットフォーム



事務局報告  
2019年1月23日



# 1. 2018年度の活動概要（1）

加盟団体数	89団体 → 90団体 *新規加盟団体は以下参照 (オブザーバー 6団体)
公開イベント回数	6回(詳細は次項参照)
延べ参加人数	約 300人

\*積水化学工業株式会社、Meteor Heart、合同会社TEMBAWANG

加盟脱退2団体

(株式会社三菱総合研究所、一般社団法人海外産業植林センター)

# 1. 2018年度活動概要（2）

## 2018年度開催イベント

開催日	タイトル
5月22日	REDD+プラットフォームユースサポーターとの意見交換会
10月17日	平成30年度ナレッジ分科会ビジネスモデル分科会合同セミナー 「REDD+の基礎から最新動向まで」
1月23日（予定）	プラットフォーム総会イベント

## COP24（ポーランド）サイドイベント

開催日	タイトル
12月6日	Satellite Technology for Mitigating Deforestation (Japan Pavilion)
12月10日	Adaptive Strategy to Climate Change in Peatland Agriculture (Indonesia Pavilion)
12月13日	Implementing REDD-plus with ecological landscape approaches (Japan Pavilion)

### 理解促進に向けた取り組み（事務局担当分）

WEBページによる活動紹介（分科会・加盟団体・ユース企画）

## 2. REDD+を取り巻く現在の状況と課題



### 1) REDD+の認知度がまだ低い

### 2) 民間企業との連携強化に改善の余地あり

- ✓ 民間企業がどのようにREDD+に参画できるのかという道筋が現状においては明確ではない。そのため、民間企業にとって、具体的な事業形成等のビジネスプランの検討が難しい。
- ✓ REDD+を取り巻く環境・国際動向は流動的(GCF等特に資金に係る部分)で、情報収集と提供を積極的に行うニーズは高い。

### 3. 2019年度活動計画策定にあたっての留意点



- ✓ ポスト2020を見据えた活動計画の検討
- ✓ 関係省庁との更なる連携(国際潮流・国内温暖化政策のアップデート)
- ✓ ビジネス連携の促進に向けた情報収集
- ✓ 民間企業にとっての具体的なエントリーポイントの提示  
例: GCFを含む、JICAからの積極的な情報提供
- ✓ 東京以外に拠点を置く民間企業・大学等との連携を通じた理解拡大
- ✓ 各分科会間内での連携(協働でのイベント開催)

# 4. 2019年度実行委員会報告（概要）



日時： 2018年12月17日（月） 16：00～17：30

場所： JICA本部111会議室

- REDD+の認知度は依然低く、ターゲット層を意識した継続的な情報発信
- REDD+PF加盟による「お得感」を工夫。
- 民間企業に広がるREDD+の閉塞感にどう向き合うか？
  - ⇒ 情報の「枠」を広げる。REDD+と少し距離を置いたESGやSDGsなどにも視野を広げた取り組みの推進。
  - ⇒ 「REDD+」を入り口にしない。  
結果的にREDD+につながるようなJICAのポテンシャルの棚卸しが必要。
- 現地政府・現地NGOとのマッチングの機会の創出（JICAへの期待）
- 地方での活動も継続（セミナー、イベント開催など）

以上